

検討体制の見直しについて

2022年 6 月 23 日

総務省総合通信基盤局消費者行政第一課
総務省情報流通行政局情報流通振興課

「ICT活用のためのリテラシー向上推進会議」について【案】

- **GIGAスクール構想**による一人一台端末の実現や高年齢層まで含めたスマホの普及が進展するなかで、総務省は、**デジタル活用支援推進事業**により高年齢層を中心としたスマホ教室等の取組を推進しているが、これはデジタル時代における「入り口的施策」。
- 今後は、単にデジタル機器を適切に扱う能力を越えて、欧米で普及している**デジタル・シティズンシップ**の考え方^{*}も踏まえ、**全世代がICTを当たり前**に活用して積極的に社会参加していくための体系的なスキルや考え方を身につけていくことが必要。
- そこで、**本年夏を目途に、全世代のリテラシー向上を推進するためのロードマップの策定**や、**全世代の総合的な推進方策**（ガイドラインや指標の策定、具体的な取組の内容等）について議論する**ICT活用のためのリテラシー向上推進会議**を設置する。

※デジタル・シティズンシップ

自分たちの意思で自律的にデジタル社会と関わっていく考え方。「情報を効果的に見つけ、アクセス、利用、作成し、他のユーザーと共に、積極的、批判的、センシティブかつ倫理的な方法でコンテンツと関わり、自分の権利を意識しながら、安全かつ責任を持ってオンラインやICT環境をナビゲートする能力」（出典：UNESCO）

青少年分野の施策に関する検討体制の見直し（案）

- 青少年については、ICT活用が「付加的なもの」から「必須（当然）のもの」になりつつあることを踏まえ、他の世代との関連の中で「**正のリテラシー**」を強化する必要があることから、これと「**青少年の安心・安全なICT利用環境の整備**」の検討を統合した検討体制としたい。

現行の検討体制

ICTサービス安心・安全研究会（親会）

（検討事項）

1. 消費者保護ルールの見直し・充実
2. ICTによる2020年代創造のための**青少年保護・育成の在り方**
3. その他の検討事項

青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関するタスクフォース

（検討事項）

1. 関係者の**理解力の向上**や**普及啓発**の重要性に関する事項
2. 利用者・事業者双方にとって**使いやすいフィルタリングの実現**に関する事項
3. 青少年のインターネット利用環境整備（理解力の向上・フィルタリングの活用）のための**体制の整備**に関する事項

今後の検討体制（案）

ICT活用のためのリテラシー向上推進会議（親会）

（想定される検討事項）

1. 「ICT活用のためのリテラシー向上推進ロードマップ」の策定
2. 全世代を対象とする標準ガイドライン・標準指標の在り方の検討
3. 全世代がICTを通じて「**学び・創造・社会参加**」をするための方策の検討 等

青少年のICT活用促進環境整備WG（※）

（想定される検討事項）

1. 青少年が**ICTを活用することを前提とした安心・安全な利用環境整備**の検討
2. 青少年が学校・家庭・地域・全国で**ICTを通じた「学び・創造・交流」を行う方策**の検討 等

※「青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関するタスクフォース」から位置づけを変更し、改称する。

想定される検討事項

「ICT活用のためのリテラシー向上推進会議（親会）」の検討事項（案）

(1)「ICT活用のためのリテラシー向上推進ロードマップ」の策定

- 全世代の全利用者が、単にデジタル機器を適切に扱う能力を越えて、ICTを当たり前を活用して積極的に社会参加していくための体系的なスキルや考え方を身につけるための施策を推進する「ICT活用のためのリテラシー向上推進ロードマップ」を検討・策定する。
- ロードマップには、以下の将来像を具体化した内容を盛り込むこととする。
 - 将来像1 全世代が「学び・創造・社会参加」のためにICTを日常的に活用する社会の実現
 - 将来像2 官民における「正のリテラシー」を推進する取組の拡充
 - 将来像3 世代に応じた取組の拡充と世代横断的な施策の整備
 - 将来像4 全世代を俯瞰できるメディア情報リテラシー指標の創設
 - 将来像5 官民のリテラシー施策を便利に検索・利用できるポータル創設

(2)全世代を対象とする標準ガイドライン・標準指標の在り方の検討

- 国際機関や欧州・米国等で普及が進んでいるデジタル・シティズンシップの考え方に基づく国際的な標準文書や教材等も参考にして、未就学児から小中高校生、成年層、高齢層までの全世代に対してICT活用とリテラシー向上に資する施策（図書館等での講座等）を体系的に実施していくに当たっての手引きとなる、標準ガイドラインと標準的なリテラシー指標の在り方を検討する。

(3)全世代がICTを通じて「学び・創造・社会参加」をするための方策の検討

- ロードマップで掲げる予定である「将来像」の全国的な実現に向けて、全世代がICTを通じて「学び・創造・社会参加」をするための方策の具体的なスキームや取り組むべき課題、将来的な社会実装に向けた方向性等を検討する。等

「青少年のICT活用促進環境整備WG」の検討事項（案）

(1)青少年がICTを活用することを前提とした安心・安全な利用環境整備の検討

- 「青少年タスクフォース」における検討を引き継いで、「青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関する新たな課題及び対策」（2021年7月、青少年TF）を踏まえ、社会全体のデジタル化の急速な進展等に伴い青少年のICT利用が「必須（当然）のもの」となりつつあることを前提としたフィルタリング利用促進や情報「発信」機会の拡大を踏まえたペアレンタルコントロールの強化等について、フォローアップや更なる推進方策の検討を行う。
- インターネットの安全な利用に係る普及啓発を目的とする出前講座「e-ネットキャラバン」等の青少年向け啓発施策について、デジタル・シティズンシップの考え方も踏まえ、今後のデジタル社会において必要となるリテラシーの向上に資する内容としていく方向で、その在り方を検討する。

(2)青少年が学校・家庭・地域・全国でICTを通じた「学び・創造・交流」を行う方策の検討

- ロードマップで掲げる予定である「将来像」の全国的な実現に向けて、青少年が学校・家庭・地域・全国でICTを通じた「学び・創造・交流」を行う方策の具体的なスキームや取り組むべき課題、将来的な社会実装に向けた方向性等を検討する。等